第3節　展　示　事　業

常設展示室では4回の展示替え（版画は8回）と2期の拡大展示を行い、企画展示室では近現代における国内外の多様な美術を7つの展覧会によって紹介した。

1　常　設　展

(1) 第　1　期　　3月31日～6月29日
(2) 第　2　期　　6月30日～9月28日
(3) 第　3　期　　9月29日～1月11日
(4) 第　4　期　　1月12日～3月28日
(5) 拡大常設　－福島県大正期の日本画－
　（前　期）　　12月5日～12月20日
　（後　期）　　1月9日～1月31日
(6) 無料観覧日の実施　　5月5日、9月15日、11月3日
(7) 常設展入場者数
　　19,402人（有料11,258人、無料8,144人）

2　企　画　展

展覧会名	会期（月：日）	有料入場者数
近代日本水彩画の展開	4 11～5 10	5,811人
ピカソ展	5 16～6 21	14,778
第2回具象絵画ヒエンナーレ	6 27～7. 26	3,367
20世紀・世界の美術	8 1～9 6	7,643
大山忠作展	9 12～10 11	6,214
現代東北美術の状況展・Ⅱ	10 17～11 23	4,824
北欧デザインの今日	2 13～3 21	5,002

企画展入場者数52,812人（有料47,639人、無料5,173人）

第4節　調査研究事業

調査・研究は、美術館の運営ならびに事業展開のために最重要の活動である。研究の成果を蓄積し、館の機能の充実を図っており、その項目および概要は次のとおりである。

1　研　究　項　目

①作　家　②作　品　③技　法　④美術史
⑤保　存　⑥教育普及　⑦展覧会　⑧運営
⑨県内外の展示施設　⑩美術館利用者の動向　他

2　研究紀要第3号の概要

－執筆は県立美術館学芸員－

① 亜欧堂田善の銅版技法習得に関する諸問題
　－松平定信との関係を中心に－　　岡部　幹彦

② 大元帥法本尊画考
　－常暁請来像と宮中六幅本尊画をめぐって－二階堂　充

③ 関根正二作『天平美人』屏風について　　村田　真宏

3　海外研修への派遣

美術館連絡協議会の派遣により、アメリカ合衆国において自主研修を行った。その期間と概要は、次の通りである。

研修者	早川博明　学芸員 （昭和62年11月1日～63年1月21日）
研修先	ニューヨーク／ワシントン／シカコ／ボストン／セントルイス／サンフランシスコ／ロスアンゼルス　他

第5節　普　及　事　業

美術とのふれ合いを身近なものにするために、さまざまな視点から普及事業をすすめた。その概要は次のとおりである。

1　講演会の開催

(1) 定期講演会
① 「安井曽太郎と梅原龍三郎」　5月5日（80人入場）
　講師　富山　秀男　　東京国立近代美術館次長
② 「近代美術の西洋と日本」　9月15日（190人入場）
　講師　高階　秀爾　　美術史家・東京大学教授

(2) 企画展講演会
① 「水彩画にみる日本の風景」　4月19日（70人入場）
　講師　匠　　秀夫　　茨城県立美術博物館長
② 「ピカソ－愛と芸術－」　5月31日（120人入場）
　講師　瀬木　慎一　　美術評論家
③ 「今日の具象絵画」　7月5日（60人入場）
　講師　村木　　明　　美術評論家
④ 「20世紀の美術」　8月2日（70人入場）
　講師　針生　一郎　　美術評論家
⑤ 公開対談
　「大山忠作氏に聞く」　10月4日（180人入場）
　ゲスト　大山　忠作　　画家
　聞き手　原田　　實　　福島県立美術館長
⑥ 公開シンポジウム
　「制作を語る」　11月3日（140人入場）
　司　会　三木　多聞　　国立国際美術館長
　パネラー　工藤　甲人　（日本画）
　　工藤　哲巳　（彫　刻）
　　田口　安男　（洋　画）
　　峯田　敏郎　（彫　刻）

2　映画会の開催

毎月1回、日曜日に実施し、午前・午後の2回上映した。

① 「エデンの東」　4月26日（720人入場）
② 「メアリー・ポピンズ」　5月24日（490人入場）
③ 「破　戒」　6月21日（340人入場）
④ 「氷　壁」　7月26日（360人入場）
⑤ 「戦艦ポチョムキン」　8月23日（380人入場）
⑥ 「　母　」　9月27日（210人入場）
⑦ 「ベニスに死す」　10月25日（360人入場）
⑧ 「嵐が丘」　11月22日（580人入場）
⑨ 「砂の女」　12月13日（230人入場）